

第 27回 あわら市都市計画審議会議事録

日 時	令和7年3月5日(水)午後2:00～	
場 所	あわら市役所2階 203 会議室	
議題	報告事項	あわら市都市計画マスタープラン(立地適正化計画)の経過報告について
出席者	1 号委員 (学識経験者)	野嶋 慎二 小嶋 範久 山岸 亜紀 笹岡 太久磨
	2 号委員 (市議会委員)	三上 寛了 木下 勇二
	3 号委員 (関係行政機関)	廣部 雄一(三国土木事務所長) 竹内 将史(坂井農林総合事務所長) 代理:江川 裕幸(坂井農林総合事務所農村整備部長)
	幹事	大味 雅彦、松井 義弘
	事務局	建設課:細川課長、笠川 GL、木村
会長	(開会の挨拶、出席状況の報告)	
	それでは報告事項(1)あわら市都市計画マスタープラン(立地適正化計画)の経過報告について、事務局の説明を求める。 (報告事項について説明する。) (委員に意見、質問を求める。)	
委員	アンケート結果では、観光などの分野がないが、都市マスタープランには今後反映していくのか。	
事務局	令和7年度に「基本方針と将来像」、「分野別方針」等を作成するときに反映する。	
会長	引き続き、事務局より説明を求める。 (報告事項について説明する。) (委員に意見、質問を求める。)	
委員	課題を抽出するためにカテゴリーに分けられているが、前回作成時のカテゴリーで分けているのか。	
事務局	各種の上位計画(総合振興計画など)に記載されているキーワードを基に分けている。	
委員	「観光・産業」の課題が抜けているのではないかと。道路に関しての課題も記載した方がよいのではないかと。市街地と農村地域の課題は、分けて考えた方がよい。	
事務局	課題の中で項目としてあげていないが「地域資源を活かした新たな活力、賑わいの創出」などに記載していくことになる。	

委員	デマンド交通の利用者は減少していると記載されているようだが、増加しているのではないか。
事務局	デマンド交通の分析は続けていくが、利用者の減少は、以前に比べると路線バスが減便していることなどからも全体的に利用者が減少していると記載している。
委員	農村は、交流やコミュニティー機能の強化に焦点を当てているが、交流人口の増加といった面が少ない気がする。
事務局	検討していく。
委員	空き家対策は、課題として挙げないのか。
事務局	空き家、空き地、低未利用地の問題は、関係人口を増やしていく中での問題としても挙げるよう検討していく。
委員	皆さんの意見は理解できるが、あまり細かくしすぎると総合振興計画と相違ないものになってしまう。都市マスタープランは都市機能に着目して記載すべきである。
会長	その通りである。空間的配置計画など都市計画決定につながるような文言を記載すべきである。公共交通計画や空き家対策などの計画と連携して作成していくとよい。
委員	子育て世代や若者に目を向けたことも記載した方がよいのではないか。
事務局	どこまで細かく記載するかはあるが、「持続的に発展する市街地」の中の課題として取り上げるべきかと考える。
会長	課題としては、前回は踏襲しながら時代に即した課題に変遷しているのでよいかと思う。観光としての記載はあるのか。
事務局	中心市街地の部分や地域資源の部分に記載はしている。
委員	人口減少の中で、子どもたちが分散していく中で居場所的な観点があった方がよいと思う。
事務局	「暮らしやすさ・交通の利便性の維持」に若者や高齢者について触れているようにそちらに含まれていくと考える。
会長	生活サービスの中にそういった部分も含まれていくと思う。
委員	総合振興計画も作成している中で都市マスタープランの方が先行しているので整合性を図っていただきたい。
事務局	了解した。
会長	他に意見が無いようなので、これで審議会を終了します。